

### Ⅲ 活動の詳細

#### 1. ヒアリングの実施について

2012年10月から随時、保育園や母親サークル、助産院、行政が運営するファミリーサポートセンターを訪れるなどして、計60名ほどにヒアリングを行った。「子育てどう（Do）？」トークカフェの参加者も聞き手として加わり、現在もヒアリングを継続している。

先にもふれたように、今年度は未就学児の母親を対象として絞り、一人ひとりの声にじっくりと耳を傾けることに努めた。基本情報を除いては質問項目も予めこちらで設定するのではなく、「子育てどう？」から始め、相手が思いや現状をありのままに話せるようにした。



←「ママとベビーの輪」  
(つくば市並木交流センター)  
でのヒアリングの様子



美浦村子育て支援センターでの→  
ヒアリング後

**いほらきの子育てDo?**

\* 現在、子育て真っ最中の、または、子育てに関わっている。

\* 「子育てな」みなさまへ

**ヒアリングへのご協力をお願いします**



いほらきの子育てどう(Do)?プロジェクト

「あなたの子育て、どうですか?」

こう聞かれたときに、あなたならどんなことを話していただけますか? どんなに小さなことでも個人的なことでもかまいません。茨城の「子育てな」みなさまが、日々どんなことを感じ、どんなことを考えているのか、私たちに教えてください。みなさまの声を集め発信しながら、一緒に、茨城の子育てを考えていければと思います。

facebookにぜひご参加ください!  
<http://www.facebook.com/kosodate.do>  
 右のQRコードからもURLを取得できます。



**いほらきの子育てDo?**

**いほらきの子育てどう(Do)?プロジェクトとは**

子ども達を取り巻く環境が大きく変化し、いじめ・体罰など、国内では様々な問題が取り沙汰されています。

茨城県は豊かな自然環境や農産物など、子育てにも大変恵まれた環境です。にも関わらず、魅力度調査では47都道府県中47位といった報告もあります。茨城県民として、私たちに何かできることはないのでしょうか。

私たちは、このような環境の中で、少なからず不安や迷いを感じながら一生懸命に子育てをしている方たちと一緒にこそ、何かができるのではないかと、思っています。

子育て真っ最中の方々が、「どうせ〜だから、仕方ない」「〜のせいではできない」「子育てはこうあらねばならない」といった考えから脱し、「いま」の茨城の子育てを、みんなで考え、みんなで良くしていこうという気持ちと行動を起こせたら、未来の茨城はもっと生き生きとしてくるのではないのでしょうか。

私たちは今、そのきっかけづくりが必要だと考えます。

\*本プロジェクトは、認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所が中心となり、主に2012年度～2013年度バルシステム助成金にて運営されています。

**子育てどう(Do)?プロジェクト運営委員会**  
 認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所  
 NPO法人水戸子どもの劇場 横須賀聡子  
 常磐大学 池田幸也

お茶・軽食・保育付きトークカフェ  
 今後も予定しています。ぜひご参加ください。  
 最新情報はWebから。  
[http://rise.gr.jp/net/kosodate\\_do](http://rise.gr.jp/net/kosodate_do)



ヒアリング協力依頼チラシ

**住まい**

子育て世代向けマンションなのに、子どもがうるさいと不動産屋が来て、「静かにしなさい」と叱っている児童相談所が来てしまう。

アパート世帯は自治会に入れてもらえず、コミュニティからの疎外感がある。

ご近所づきあい。仲間に入れようとする警戒され、コミュニケーションがとれないと誤解が生まれる。

三世代住宅だと、夫の愚痴をおばあちゃんにこぼせる。

シングルマザー同士のシェアハウスがあるなら、シングルファザーのシェアハウスもあればいいのに。

**子どもの遊び場**

近所の公園で、親子2人で遊んでもおもしろくない。

外出先は大型ショッピングセンター。ベビーカーに子どもを乗せて、ママ友とおしゃべりしながら店内を回る。

子育て支援センターに行っても一人。家に子どもを見てくれるおじいちゃんおばあちゃんがいるし、自然の中に遊び場があるから、新たな場所を求めてない。

公園が広すぎて、顔なじみができない。

ヒアリングから得た声をまとめてファイリングした資料の一部。話がなかなか出てこない方にはきっかけとして、また折にふれてこのファイルを見ていただくことで、話題を広げ、さらに様々な声を引き出せるようにした。

## 2. 「子育てどう(Do)?」トークカフェの実施について

『共感と発見のための「子育てどう (Do)?」トークカフェ』と題して保育付き座談会を実施、計59名の参加(子ども・ボランティアを含む)があった。各会の様子は下記のとおりである。

---

### ① 第1回 共感と発見のための「子育てどう (Do)?」トークカフェ

- ・日時：2013年5月18日（土）
- ・場所：つくば市松代交流センター
- ・参加人数：12名

試行的な意味合いも含め、第1回トークカフェをつくば市内で行った。

乳幼児から中高生までの子育て中の母親や父親、祖父母として子育てに関わっている方々、元教師、保健師、臨床心理士、教育や子育てに関心のある、様々な世代、様々な立場の方が集っての座談会となった。

子育て環境については、市内に転居してきたという方からはまさに「孤育て」の状態にあったことが、また、小学校や特別支援教育に関する情報の不足、不安も話題としてあげられた。

子育てに対する価値観の違い、3歳までは母親が子育てをすべきなのかなどについても話し合われ、「子育てに専念できる環境」を求める声がある一方で、「社会人としての自分も大切にしたい」という思いも語られていた。



## ② 第2回 共感と発見のための「子育てどう (Do) ?」トークカフェ

- ・日時：2013年6月22日（土）
- ・場所：つくば市民大学
- ・参加人数：30名

常磐大学の池田幸也氏をファシリテーターに迎えて実施した。多くの方がお昼を持参され、終了時間（13：00）が過ぎてまで話が尽きることがなかった。

最初は、「夕飯の用意はどうしている？」といった身近な悩みから始まり、子どもとの関わり方、働き方についてなど、子育てをする中で誰もが悩んでいることに話題が広がっていった。

「第一子への要求がつつい強くなり、バトルになってしまう」「つつい感情で怒ってしまう」といった発言に対して、皆が共感し笑い合うなど、子どもを預けて、ゆっくりお茶をしながら話ができる時間を楽しんでいた。

参加者からは「（子育てについて）先生の話聞く機会があったが、今日のようにいろいろな方とお話しできたのは初めて」「地域の子育て情報が交換できた」「自分だけじゃないんだとわかって、少しホッとした」などの声があったほか、自らも「このような企画に関わりたい」という声も寄せられた。

また、「これまで何となく自分の子育てに引け目を感じていて、このような機会があっても参加できなかった。身近過ぎないことがかえっていい」「初対面だからこそ、気兼ねなく話ができる部分もあり、とてもリフレッシュできる時間だった」「普段は知り合いのママ友としか話す機会がないので新鮮だった」という声もあった。



### ③ 第3回 共感と発見のための「子育てどう (Do) ?」トークカフェ

- ・日時：2013年7月6日（土）
- ・場所：茨城県立健康プラザ（水戸市）
- ・参加人数：17名

常磐大学の池田幸也氏をファシリテーターに迎えて実施した。水戸市の他に日立市、大子町などからの参加があった。未就学児の母親だけでなく、子育て支援をしている人の参加もあり、終了時間の間際まで話が弾んだ。

話題は多岐に及び、夜、子どもが寝付かないときにどうしているかなど具体的な話の他に、「地域がらか、支援センターに行っても自分たち親子しかいない」など子育て環境の地域間格差なども話題となった。「孤育て」が指摘される中で、「たまにはリフレッシュをしたいと思う反面で、子どもを預けることに罪悪感を感じてしまう」という声もあった。父親の子育てへの参加についても、意見が交わされていた。また、数年後の小学校入学への不安や学校との関わりをどのようにしたらよいかなど、就学についても話題にあがり、皆が関心を寄せていた。

参加者からは「子育て中の方だけでなく、子育てサポートをしている方々と幅広い話ができよかった」「多くの意見や様々な考え方を聞くことができ、自分自身視野を広く持って子育てができそう」「話が出来てよかった。次はいつあるのですか」などの声があった。

他に「思っていることがあっても、地域がら周りに遠慮をして発言できない」「小さな町や集落だと顔が見えすぎるから、かえって言いにくいこともある」「転勤族が多い地域は、知り合ってもまた転勤してしまうので、交流が生まれにくい気がする」といった声も聞かれた。



#### ④ トークカフェ参加者から寄せられた感想

- いろんな年齢層と場所の方のお話を伺うことができ、面白かったです。どこにいても子育てしている人がいるのに対し、子どもの行動半径はとっても狭くて、子どもに関わる大人がその子どもの世界の狭さを理解し、外界へ導いてやってやる事が、大人の仕事なのかなあと感じました。ありがとうございました。
- 今日は貴重な機会をいただき感謝しています。託児のボランティアの方にも感謝です。こういう機会を私は待っていたのだと思いました。すごく楽しかったし、また参加したい。企画する側に関わっても楽しそうだな、なんて思いました。
- 子が同じくらいのお母さんと話す機会は多くても先輩方のお話を伺える機会があまりないので新鮮でした。逆にお話を伺って今を大切に過ごそうと思えてよかったです。ありがとうございました。
- とても楽しかったです。保育付きで初めてお会いするママさんと話すことができ、たくさんの悩みを打ちあけられ、共感し合うことができました。保育ボランティアさんの方とも少し話ができ、このような機会をもっと増やして頂ければ子育てママの「孤立感」がものすごく軽減するのではないかと思います。
- とにかく楽しい時間でした、もっともっと話をしたいし聞きたいと思ってます。次回も参加します！
- 自分自身に発達障害があり、人との関わりの中で様々なトラブルに遭遇してきたので、消極的になっていましたが、こういった集まり（基本的には嫌いではないので）も良いなあと感じました。また機会があったら参加してみたいです。
- 娘と2人であることが多いので、他のお母さんと話せる機会ができてとても良かった。これから出てくるであろう悩みも解決方法を教えてもらって、とても参考になりました。

「今日の夕ご飯、どうする？」

「テレビとどう付き合う？」

「こんなことでも話していいの？」

いろいろ話して  
すっきりしちゃいましょう♪

お茶・  
お菓子付

保育あり

共感と発見のための  
「子育てどう(Do)?」  
トークカフェ

2013年6月22日(土)10:00～12:00 つくば市民大学  
(～13:00 いっしょにランチも可)

2013年7月6日(土) 10:00～12:00 茨城県立健康プラザ  
(～13:00 いっしょにランチも可)

参加費 500円 (お茶・お菓子・資料代) \*保育は無料です。

対 象 現在 未就学児を子育て中の保護者の皆様、  
その他ご関心のある方 (各回20～30名程度)

ファシリテーター 常磐大学 池田 幸也さん

facebookにもぜひご参加ください！  
<http://www.facebook.com/kosodate.do>  
右のQRコードからもURLを取得できます。



主催 いばらきの「子育てどう(Do)?」プロジェクト運営委員会  
助成 ハルシステム茨城 2012年度くらし活動助成基金  
後援(申請中) 茨城県、茨城県教育委員会、つくば市、水戸市



### 気軽に子育てトークしませんか？

お茶とお菓子を囲んで気軽に子育てトークしませんか？  
共感しあったり考えあったりしながら、一人ひとりが自分の力を感じ、  
認め合い、元気になれたらと思います。  
もしよかったら、お弁当も持ってきて下さい。お時間の許す方は、お子  
さんも交えて、いっしょにランチをしませんか？

- \* 保育は12時までです。
- \* 保育をご希望の場合は、参加希望日の15日前までにお申込みください。
- \* 保育は定員になり次第、受付を終了させていただきます。ご了承ください。

【 参加申込書 】

お名前(ふりがな)	希望会場(どちらかに○)		
	つくば市民大学 ・ 茨城県立健康プラザ(水戸)		
メールアドレス	TEL	FAX	
保育が必要なお子さんのお名前(ふりがな)	月齢	歳	ヶ月
保育が必要なお子さんのお名前(ふりがな)	月齢	歳	ヶ月
保育が必要なお子さんのお名前(ふりがな)	月齢	歳	ヶ月

いばらきの「子育てどう(Do)?」プロジェクト運営委員会  
認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所 松井由佳、椎名千恵、北村直子、大塚愛子  
NPO法人水戸こどもの劇場 横濱賢聡子

事務局(担当)：認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所(松井)  
〒305-0051 茨城県つくば市二の宮4-3-2 二の宮コーポC101  
TEL 029-856-8143 E-mail rise@cucre.ocn.ne.jp

申込書FAX番号

FAX 029-896-4035

9

### 3 . Facebook サイトの運用について

2013年1月に、Facebookページ「いばらきの 子育てどう (Do) ?」を立ち上げた。これまでに「子育てトークカフェ」の広報を行うほか、ヒアリングで集まった声を掲載などし、アクセス数も徐々に伸びてきており、8月のページ閲覧者数は、20日までで延べ429名となった。

今後は、ヒアリング等に寄せられた声とともに、子育てに関する提案も掲載し、意見を求めていく予定である。



↑ 「いばらきの子育てどう (Do) ?」 Facebookページ (URL <https://www.facebook.com/kosodate.do>)

さらに、アドバイザーでもある横須賀聡子氏に原稿をお願いし、「子育てな人」というコーナーで紹介。下記記事に、多くの子育て世代が共感を示していた。

○ **ワタシは、家事と子育ての苦手な専業主婦！** ○

結婚して、さあステキな家族をつくるんだ！との決意もむなしく、ルーティーンワークと管理の苦手な私が、いい嫁、いい妻、いい母親になれるわけなどなく、あっという間に問題が山積、無力感と孤独と不安に押しつぶされそうな毎日を過ごすことになった。

(次ページへ)

赤ちゃんだった長男が泣けば、私の方が泣きたくなる。

会話にならない子どもとの毎日、ひらがなしか読まない生活は、社会の中でたった一人だけ取り残されていく自分というイメージしか浮かばない。

私は、どんどん疎外感を膨らまし、外出先で子どもを気遣ってくれる年長者の一言も、ダメな私への非難に聞こえ、優しい言葉や支援の手にも怯えていたように思う。

そんなある日、デパートの床に寝転んで泣きわめく我が子に困り果てている私に、今の私くらいの年齢の女性が声を掛けた。

視線が合った瞬間、「また非難される…」と身構える私に、「このくらいの子がいるとママは大変よね」とさりげなく声を掛けて、そのまま通り過ぎていったのだった。

でも、その一言に何故だか涙がこぼれた。今まで親切に声を掛け、子どもを抱き起してくれたり、子どもをあやしてくれた人たちのように、何かしてくれたわけでもないのに、その出会いに私は救われた。

きっと、わかってもらえた、という感覚が、辛いのは自分がダメだから、子どもがかわいそうだ、できない私を誰も許してくれない、母親なんだからもっと頑張らなきゃ、と固くなっていた私の心をほどいて、心の中にため込んで行き場を失っていた涙が溢れたのだと思う。

## ○ 子どもたちの未来は、ワタシたちの社会の中に！ ○

近所の公園で、近くに住む同い年の子どもがいる女性に出会った。いわゆるママ友というやつができたのだ。

彼女は、子ども好きで、家事が上手、しっかりとしたお母さんタイプの人に見えた。

子どもが子育てをしているような私たち親子の危うさに、手を貸さずにはいられなかったのだろう、毎日のようにお茶に誘ってくれ、ときには昼食にも招いてくれて、子どもを預かってくれもした。

私たち親子は、子どもが幼稚園、小学校、中学校と通う間、彼女を介してご近所の子どものいる家族とつながり、たくさんの家族の中で私も子どもも育ててもらったのだった。

そのつながりは、子どもたちが大人になった現在でも続いている私の宝物だ。

私が、（水戸）こどもの劇場という場で、お母さんたちと一緒に子育てをしていきたいと思う理由は、これらの経験からだ。

私と私の子どもたちが生き延びることができたのは、私たちを支えてくれたたくさんの人に恵まれたからだった。

だけど、もしかしたら、どんな家族でも、子どもは家庭の中だけでは育たないのかもしれないとも思う。

たくさんのかかわりの中で泣いたり、笑ったり、怒ったりしながら、子どもも大人も自分を確認し、居場所をつくっているのではないか。

それならば、私がしてもらったことを次の人たちに返していきたいと思う。

人がつながり、支え合い、必要なことを創り出し、一緒に育っていける場をつくろう。子どもたちという未来は私たちの社会の中で育っている。